

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成28年9月29日 (2016.9.29)

【公開番号】特開2015-108100(P2015-108100A)

【公開日】平成27年6月11日 (2015.6.11)

【年通号数】公開・登録公報2015-038

【出願番号】特願2013-252461(P2013-252461)

【国際特許分類】

C 0 8 F 2/44 (2006.01)

G 0 2 B 5/30 (2006.01)

G 0 2 F 1/1335 (2006.01)

C 0 9 J 4/00 (2006.01)

C 0 9 J 11/06 (2006.01)

C 0 9 J 4/02 (2006.01)

B 3 2 B 27/16 (2006.01)

C 0 8 F 220/18 (2006.01)

C 0 8 F 220/26 (2006.01)

C 0 8 F 220/56 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 F 2/44 B

G 0 2 B 5/30

G 0 2 F 1/1335

C 0 9 J 4/00

C 0 9 J 11/06

C 0 9 J 4/02

B 3 2 B 27/16 1 0 1

C 0 8 F 220/18

C 0 8 F 220/26

C 0 8 F 220/56

【手続補正書】

【提出日】平成28年8月10日 (2016.8.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

分子内にカルボニル基を有する , - 不飽和二重結合基含有化合物 (A) (ただし、ここでいうカルボニル基は、 , - 不飽和二重結合基に直接結合しているカルボニル基を除く。)と、

分子内にカルボニル基を有しない , - 不飽和二重結合基含有化合物 (B) (ただし、ここでいうカルボニル基は、 , - 不飽和二重結合基に直接結合しているカルボニル基を除く。また、1級及び/または2級アミノ基を有する , - 不飽和二重結合基含有化合物を除く。)と、

アミン系化合物 (C) と、を必須成分とする活性エネルギー線重合性樹脂組成物。

【請求項 2】

活性エネルギー線重合性樹脂組成物全量中、

化合物（Ａ）を 0.5 ～ 30 重量％、

化合物（Ｂ）を 40 ～ 99 重量％

化合物（Ｃ）を 0.5 ～ 30 重量％

含有することを特徴とする請求項 1 記載の活性エネルギー線重合性樹脂組成物。

【請求項 3】

化合物（Ａ）に含まれる、 、 -不飽和二重結合基が、アクリロイル基、またはメタクリロイル基であることを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の活性エネルギー線重合性樹脂組成物。

【請求項 4】

化合物（Ｃ）が有するアミノ基が、1 級、または 2 級アミノ基であることを特徴とする請求項 1 ～ 3 いずれか記載の活性エネルギー線重合性樹脂組成物。

【請求項 5】

化合物（Ｃ）が有するアミノ基は、 2 個以上であることを特徴とする請求項 1 ～ 4 いずれか記載の活性エネルギー線重合性樹脂組成物。

【請求項 6】

基材（Ｇ）と、該基材（Ｇ）の少なくとも一方の主面に設けられた、請求項 1 ～ 5 のいずれか記載の樹脂組成物からなる樹脂層とを有する積層体。

【請求項 7】

前記、基材（Ｇ）が、透明フィルム（Ｈ）である請求項 6 記載の積層体。

【請求項 8】

前記、透明フィルム（Ｈ）が、ポリアセチルセルロース系フィルム、ポリノルボルネン系フィルム、ポリプロピレン系フィルム、ポリアクリル系フィルム、ポリカーボネート系フィルム、ポリエステル系フィルム、ポリビニルアルコール系フィルム、及びポリイミド系フィルムからなる群から選択される少なくとも 1 種である請求項 7 記載の積層体。

【請求項 9】

光学フィルムと、該光学フィルムの少なくとも一方の主面に設けられた、請求項 1 ～ 5 いずれか記載の樹脂組成物からなる樹脂層とを有する光学素子用積層体。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

すなわち、本発明は、分子内にカルボニル基を有する、 、 -不飽和二重結合基含有化合物（Ａ）（ただし、ここでいうカルボニル基は、 、 -不飽和二重結合基に直接結合しているカルボニル基を除く。）と、

分子内にカルボニル基を有しない、 、 -不飽和二重結合基含有化合物（Ｂ）（ただし、ここでいうカルボニル基は、 、 -不飽和二重結合基に直接結合しているカルボニル基を除く。また、1 級及び / または 2 級アミノ基を有する、 、 -不飽和二重結合基含有化合物除く。）と、

アミン系化合物（Ｃ）と、を必須成分とする活性エネルギー線重合性樹脂組成物に関する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0215

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0215】

《収縮率》

上記偏光板小片を 80 - d r y と 60 - 90 R H % の恒温恒湿機中に放置し、60

時間後の延伸方向の縮み量を測定し、元の長さ（１００mm）に対する縮み量の割合を収縮率とし求め、以下の３段階で評価をした。

なお、「dry」とは、湿度調整機能付のオープンで、温度のみコントロールし、湿度のコントロールを行わなかった場合の試験条件である。「」評価以上の場合、実際の使用時に特に問題ない。

（評価基準）

- ：収縮率が０．２％以下
- △：収縮率が０．２％より大きくて０．４％以下
- ×：収縮率が０．４％を超える。